

3月29日 脳卒中予後予測セミナー伝達講習に参加して

鈴木光則

【感想】

かつてはICUの超急性期リハビリから退院後の外来でのリハビリまで、1人の患者さんを数年見続けることができ、回復の過程をじっくり見ることができていた。

そうすると、経験的に予後予測がおおよそわかるようになることができたが、現在は短期間の関わりしかできず、ましてや経験の少ないスタッフにはさらに予後予測は難しいものである。

今回は、計算式を使って予後予測をするというもので、1つの目安として目標を考えるにはいいツールだと感じた。

リハビリを進める上では、たくさんの阻害因子があるので、計算どおりにはいかないとは思いますが、何故予測までたどりつけないのか、予測よりも良くなった要因は何だろうなど、より深く自分の行っていることを考える材料になると感じた。



